

事例①

知的障がい特別支援学級における自立活動 自己理解

授業づくりの視点

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 自立活動の指導で、どんなことに取り組んだらよいか分からない。
- 生徒の発達の段階に応じてどのように自己理解を促したらよいか又、他者との関わり方をどのように身に付けさせたらよいか分からない。

① 自立活動の時間における指導

ファーストステップ！

◆例えば、「自立活動」で、こんなことから始めてみましょう。

- 自立活動「自分を知る～わたしの説明書づくり～」
- 中学校
- 特別支援学級（知的障がい）

本時の目標

- ・自分のよさを受け入れ、自分の特徴を自分の言葉で表現することができる。
- ・自己の課題を捉えることができる。

ファーストステップ②

・自分や他者のことを考えやすくする教材の工夫

→○×で記入する自己理解、他者理解のワークシートの活用

	学習活動	手立て／留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウォーミングアップ ○ 目標の確認 	※学習の目的（ゴール）を説明する
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分を知ること ○ 相手のことを知る ○ ワークシート「わたしはこんな人・あなたはこんな人」 ○ 自己の課題と向き合う 	※日常の自分自身の行動を振り返りながら記入できるように個別の声かけの支援
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返り 	

ファーストステップ①

- ・発達の段階の異なる生徒が同一の学級に在籍しているため、**個別に設定した目標**をタブレット端末を活用して確認できるようにしましょう。
- ・本授業を通して「**こんな姿に成長してほしい**」という**具体的な姿を提示**しましょう。

ファーストステップ③

- ・自身と向き合い、心の中を素直に言語化できるように**共感し、安心感を与える丁寧な対話**を繰り返しましょう。
- ・日常的な生徒との関係づくりも大切な要素となります。



事例②

通級指導教室における、自分の気持ちを伝えたり、話を聞いたりするのが苦手な子どもへの指導の工夫

授業づくりの視点

① 自立活動の時間における指導

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 友だちと上手にコミュニケーションが取れず、よくトラブルになる子どもにどうやって他者との関わり方を指導したらよいか分からない。

ファーストステップ！

◆例えば、「自立活動」で、こんなことから始めてみましょう。

- 自立活動「話そう！ 聞こう！ ゲームを楽しもう！」 □ 小学校 □ 通級指導教室（自閉症）

本時の目標

- ・日常生活の様々な場面に応じてよりよい行動を考え、相手の気持ちを意識しながら自分の思いや考えを言葉で伝えることができる。

ファーストステップ②

- ・実際に教師や他の児童と関わりながら学べるようにしましょう。



	学習活動	手立て／留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の流れの確認 ○ これまでの学習の振り返り ○ 一週間の出来事を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※板書に示す ※発表の順番や、質問の仕方を示す。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題 ・相手の気持ちを意識しながら自らの思いや考えを言葉で伝える。 ○ イラストを見て会話を考える ・具体的な場面を見て会話を考え、やりとりしながら発表する。 ・望ましい会話について考えをまとめる。 ○ 会話の実践 ・ゲームの種類を決める話合いを行う。 ・カードゲームに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ※話形や会話の例を板書に示す。 ※聞きながら傾聴する。 ※3種類のカードゲームから、話合いで一つのゲームを決める。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返り 	

ファーストステップ③

- ・児童が話しやすい雰囲気をつくりましょう。
- ・児童同士が、話合いを実践できるようにするなど、学んだことを実際に使える場面を設定しましょう。

ファーストステップ①

- ・本時の流れを 示し、児童が 見通しをもてるようにしましょう。
- ・発表や会話の仕方の 具体例を示すなど、児童の課題に応じた支援をしましょう。



◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 周りの状況や相手の気持ちを理解して行動することが難しい生徒にどう指導したよいか分からない。

① 自立活動の時間における指導

ファーストステップ！

◆例えば、「自立活動」で、こんなことからはじめてみましょう。

- 自立活動「人間関係の形成」
- 中学校
- 通級指導教室

指導の目標

- ・他者との適切な関わり方を身に付けることができる。

事例2. 自閉症スペクトラム、ADHDの影響がある生徒への指導

指導目標

- ・気持ちを安定させて過ごすことができる。
- ・他者との適切な関わり方を身に付けることができる。

具体的な指導

(個別指導) ・共感的受容的な関わりを通して、不安や緊張を軽減させる。
 ・SSTを通して感情をコントロールする力を高めたり適切な行動を増やす。

(集団指導) ・グループ活動で適切な関わり方を身に付ける。

	学習活動	手立て/留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の流れ ○ 自由会話（個別指導） 	※話題や話し方を評価し、他者との話題を自ら選択できるように促す。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題 ○ 他校生徒との交流（集団指導） ・自分がやりたいゲームを伝える。 ・全員が楽しめるゲームを決める。 ・ゲームや会話を楽しむ。 	※聞き手に興味をもってもらえる話題や話し方にするとよいことを伝える。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ うまくいったことなどを発表 ○ 振り返り 	

ファーストステップ①

- ・教師が、話したい気持ちを満たすことができるように生徒の話を傾聴しながら、生徒が、学習の見通しをもつことができるようにしましょう。



ファーストステップ②

- ・グループ活動を通して、生徒が集団の雰囲気に合わせてたり、集団に参加するための手順や決まりを理解したりして、集団での活動などに積極的に参加できるようにしましょう。

ファーストステップ③

- ・生徒同士で、うまくできたことなどを発表し合い、感想を共有するとともに、本時で学んだことが「(在籍する)教室でもできるかも！がんばれるかも！」という気持ちになるよう言葉がけを工夫しましょう。

事例④

知的障がいのある生徒が見通しをもって活動できる課題の工夫

授業づくりの視点

◆ 経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 学習に対する意欲が低く、集中が続かない生徒へどのように支援したらよいか分からない。

- ② 主体的な学びを促す「分かって動ける」授業づくり

ファーストステップ!

◆ 例えば、「数学科」で、こんなことから始めてみましょう。

- 数学科「角の大きさ」
- 中学校
- 特別支援学級（知的障がい）

本時の目標

- ・角の大きさを回転の大きさと捉え、それを任意の単位を用いて表そうとすることができる。

ファーストステップ②

- ・既習事項を振り返り、本時の課題に対する見通しをもてるようにしましょう。
- ・生徒が主体的に学ぶために、**具体物の操作**を取り入れましょう。

	学習活動	手立て/留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 角の大きさの定義の確認 ○ <u>キャラクター</u>の口の大きさを比較 	<ul style="list-style-type: none"> ※動画で確認 ※具体物を使って比較
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題「角の大きさの違いの表し方を考えよう」 ○ <u>活動の見通し</u> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の振り返り（水のかさや図形の面積の比べ方） ○ 各自で方針を決め、具体物を使って大きさを比較 ○ <u>考え方を発表、交流</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ※プレゼンテーションソフトや具体物使い、比べ方を視覚的に分かるように工夫 ※個人用に比較する道具を配付
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 比べ方のまとめ ○ <u>振り返り</u> 	

ファーストステップ①

- ・全体で確認が必要なところは、プレゼンテーションソフトなどを使い、**視覚的に分かりやすく提示**しましょう。
- ・生徒の**身近にあるものや生活と結び付けた課題**を設定し、学習への意欲を引き出しましょう。

ファーストステップ③

- ・他の生徒と考えを交流、共有させ、自身の活動に**自信**をもたせましょう。
- ・次時の予告をすることで、**学習に対する期待感**をもたせましょう。



事例⑤

自閉症・情緒障がい学級の生徒が活動の見通しをもちやすい指示の工夫

授業づくりの視点

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 子どもに指示が上手く伝わらず、理解させることができない。

- ② 主体的な学びを促す「分かって動ける」授業づくり

◆例えば、「技術科」で、こんなことから始めてみましょう。

- 技術科「ティッシュBox作り」
- 中学校
- 特別支援学級（自閉症・情緒障がい）

ファーストステップ！

本時の目標

- ・ 工具を安全に正しく使いながら、見通しをもって作業することができる。

ファーストステップ②

- ・ 生徒が、教師の説明に注意を向けられるよう、ホワイトボードを活用して、生徒の近くで説明しましょう。



【作業内容の説明をする様子】

	学習活動	手立て／留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の説明 ○ 本時の目標と流れを確認 	<p><u>作業のゴールイメージを示した上で、本時の作業内容と手順を確認</u></p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 材料の確認 ○ 材料に名前を書く。 ○ 使用用具の確認 ○ <u>定規で測って、材料に線を入れる。</u> ○ 材料を切る。（ノコギリの刃の確認） 	<ul style="list-style-type: none"> ※袋に入っている材料を1つずつ確認 ※どこに名前を書いたか、指差し確認 ※材料を並べて、けがき線を確認
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 片付け ○ 振り返り ○ 次回の予告 	

ファーストステップ①

- ・ 生徒が理解しやすいよう、作業手順は、
 - ①長さを測る（計測）
 - ②線を引く（けがき）
 - ③切る（切断）
 というように、**シンプルに3つ程度にまとめて提示**しましょう。



ファーストステップ③

- ・ 作業時間の終わりや、片付けの時間を視覚的に理解できるように、タイマーをテレビやスクリーンに大きく表示しましょう。



【スクリーンに表示したタイマー】

事例⑥

自閉症・情緒学級の児童に「これならできそう！」と言わせたい！

授業づくりの視点

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 自分のやりたいことを優先し、学習活動へ気持ちを切り替えられない子どもが、どうしたら授業に前向きに取り組めるようになるか分からない。

- ② 主体的な学びを促す「分かって動ける」授業づくり

ファーストステップ！

◆例えば、「算数科」で、こんなことから始めましょう。

授業のパターン化

5の段から1の段までの授業の流れを統一することで、子どもの「できなかったらどうしよう？」の不安を「これならできそう！」に変えましょう。

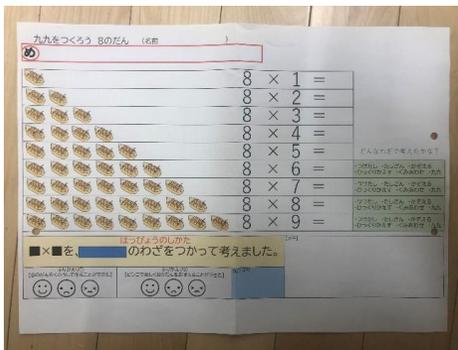
- 算数科「九九を作ろう」
- 小学校
- 特別支援学級（自閉症・情緒障がい学級）

本時の目標

- ・これまで学習した「かけざんのわざ」を使って、8の段の答えを考えることができる。

ファーストステップ②

- ～パターン化その2～
「掲示物やワークシートを工夫しましょう」
- ・パッと目を引く**掲示物**で**子どもの興味を引き出します。**



ワークシート

	学習活動	手立て/留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の流れを確認する。 ○ めあてを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 黒板に学習の流れを掲示し、活動内容を確認する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8の段の途中まで、教師と一緒に答えを考える。 ○ 8×5以降を、たしざんひっくりかえすなどの「かけざんのわざ」を使って、九九の答えをワークシートに記入する。 ○ どんな「かけざんのわざ」を使って考えたか発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「8が■自分で8×■」を繰り返し唱えながら、数量の関係に着目できるようにする。 ○ 書く活動が苦手な子どものワークシートは、なぞり書きの部分を入れたり、穴埋めにしたたりし、書く量を調整する。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8の段を使ったビンゴゲームをする。 	

ファーストステップ①

- ～パターン化その1～
「学習の流れを提示しましょう」
- ・「ここまでやったら**終わり!**」が**分かり**、安心して学習に取り組めるようにします。

ファーストステップ③

- ～パターン化その3～
「かけざんのわざを活用しましょう」
- ・繰り返し学習したことを**問題を解くヒント**として示し、「これならできそう!」と思えるようにします。

ファーストステップ④

- ～パターン化その4～
「授業の最後は全員が参加できるようにしましょう」
- ・**意欲的に取り組める学習活動を最後に設定し**、児童のやる気を継続させます。



かけざんのわざ

事例⑦

知的障がいのある生徒が主体的に動ける授業づくりの工夫

授業づくりの視点

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- ② 主体的な学びを促す「分かって動ける」授業づくり

- 授業が教師の指示が中心となってしまう、生徒が自分から活動する場面を設定できない。
- 生徒が自分から、報告、連絡、相談するなど、主体的に学んでほしい。

◆例えば、「作業学習」で、こんなことからはじめてみましょう。

ファーストステップ！

- 作業学習「クラフトバンドのかご製作」 □ 中学校 □ 特別支援学級（知的障がい）

本時の目標

- ・準備から後片付けまで、一連の流れを把握し、取り組むことができる。
- ・それぞれのタイミングで作業終了の報告を忘れずに行うことができる。
- ・工程表通りに作業を正しく進めることができる。

ファーストステップ②

・「見て、考え、取り組む」プロセスを分かりやすく示した写真付きの工程表を配付し、生徒がタブレットでいつでも見られるようにしましょう。



まわりあみカラー

- 必要な道具
- ・あみひも
- ・せんたくばさみ
- ・ボンド



好きな色のカラーひもをえらぶ。

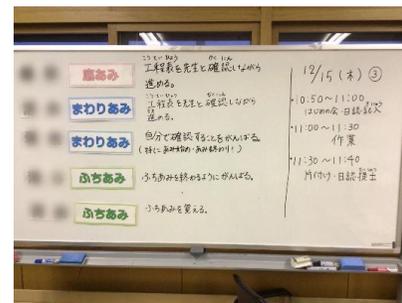


ここまでできたら報告する

	学習活動	手立て／留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の目標、個人目標を確認 ○ 作業分担の確認 ○ タイムテーブルを確認 ○ 作業日誌の記入 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の流れをルーティン化することで見通しをもって学習に取り組めるようにする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作業開始 ・必要な道具、材料を準備してから作業に取りかかる。 ・自分で工程表を見て作業を進める。 ・分からないことがあれば質問する。 ・工程表に示されたタイミングで自分から作業の終了を報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々のタブレット端末に工程表を表示させ、視覚支援の補助的手段として活用する。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作業日誌の記入 ○ 反省 	<ul style="list-style-type: none"> ○ タブレット端末を活用した振り返りの時間を確保をする。

ファーストステップ①

・前時の学習を振り返り、本時の目標とのつながりを確認しましょう。



ファーストステップ③

- ・個別に学習を振り返り、本時の成果は賞賛し、課題は生徒と一緒に考え、次時への目標となるよう励ましましょう。
- ・生徒が自分とじっくりと向き合う時間をつくりましょう。

工程表の例

事例⑧

ことばの教室に通う児童が、見通しをもち、楽しみながら学ぶことのできる学習活動の工夫

授業づくりの視点

- ② 主体的な学びを促す「分かって動ける」授業づくり

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 「もっとやりたい！」と意欲をもたせる学習展開をつくるにはどうすればよいでしょう。
- 学習の土台をつくるための学習活動は、どのように工夫すればよいでしょう。

ファーストステップ！

◆例えば、「自立活動」で、こんなことから始めてみましょう。

- 自立活動「バランスよく字を書こう」 □ 小学校 □ ことばの教室（通級指導教室）

本時（通級における課題学習）の目標

- ・文字が与える印象を意識し、マスの中にバランスよく字を書くことができる。
- ・語彙を増やし、コミュニケーション能力の向上を目指す。

ファーストステップ②

- ・ポイント制を取り入れるなど、ゲーム性を高め、「もっと、書きたい！」という気持ちを引き出しましょう。
- ・バランスよく丁寧に書く意識を高められるよう、カラーマスなど用具を工夫しましょう。

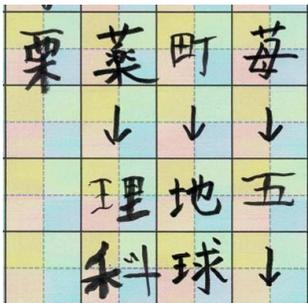
	学習活動	手立て／留意点
導入	(0) 日常会話（本時の流れ含む） (1) ウォーミングアップ まちがい探し（見る力+伝える力の育成）	・学習活動を4つのパートで構成する。
展開	(2) 教科学習～分数のたし算 (3) <u>課題学習～「書いてしりとり」</u> <u>（書字トレーニング）</u>	・用具の工夫 （カラーマス・ペン） ・既習漢字を積極的に活用するためのルール設定
終末	(4) ことば遊び～伝える力+語彙を増やす	

ファーストステップ①

- ・児童の不安感を和らげ授業に対する見通しをもてるよう、通級による指導の学習活動をパターン化したり自己決定の場面を設定したりするなど学習展開を工夫しましょう。

ファーストステップ③

- ・リラックスした雰囲気の中で、コミュニケーション能力の向上を図ることができるように、授業者は児童が自分の思いや考えを発するまで待ちましょう。
- ・児童が楽しみにしている活動を学習活動の終末に設定するなどして、児童がモチベーションを最後まで保てるよう工夫しましょう。



事例⑨

障がいのある児童が、見通しをもって意欲的に学習に取り組む活動の工夫

授業づくりの視点

- ② 主体的な学びを促す
「分かって動ける」授業づくり

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 音楽に苦手意識のある児童生徒が、器楽演奏に対して前向きに取り組めない。
- コミュニケーションに課題のある児童生徒への支援の方法が分からない。

ファーストステップ！

◆例えば、「音楽科」で、こんなことからはじめてみましょう。

- 音楽科「ひびき合いを生かして」 小学校 特別支援学級（知的障がい・自閉情緒障がい・言語障がい）

本時の目標 ・曲の特徴にふさわしい表現を工夫することができる。

ファーストステップ②

- ・階名のシールを貼ったり、楽譜に印を付けたりしましょう。
- ・児童の実態に応じて、**反復練習**や曲のテンポに配慮しましょう。



	学習活動	手立て／留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発声練習 ○ 階名で校歌・カノンを斉唱 ○ 課題の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型テレビを使用し、<u>T1が本時の学習の流れを提示する。</u>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 演奏グループと演奏順を確認 ○ 全体で部分練習 ○ グループ練習 ○ 通して合奏 ○ 合奏を録音 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動ができるように、<u>T2が楽譜の演奏箇所を指し示すなどの支援をしたり、曲のテンポに配慮したりする。</u>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返り ・録音した合奏を聴き交流する。 ・次時の学習課題を見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの演奏を聴くことにより、次時への学習課題を見つけさせる。

ファーストステップ①

- ・児童の学習状況に応じて、**T1**や**T2**が個別に支援を行いましょう。
- ・児童の課題に応じて意図的な**グループ編制**をしましょう。



ファーストステップ③

- ・次時の学習に向け、自身の課題を明確にして、主体的に活動するために、**他の児童の感想等を聴いたり、録音等で振り返ったりする活動を設定**しましょう。

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 文字を書くことに苦手意識のある子どもが、学習に対して意欲的になれなかったり、失敗すると感情的になってしまったりして、どのように支援したらよいか分からない。

- ② 主体的な学びを促す「分かって動ける」授業づくり

ファーストステップ！

◆例えば、「生活単元学習」で、こんなことからはじめてみましょう。

- 生活単元学習「おしょうがつをたのしもう」
- 小学校
- 特別支援学級（知的障がい）

本時の目標

- ・年賀状を書く活動を通して、経験したことや想像したことなどから身近な人に伝えたいことを明確にしたり、文字の形に注意しながら丁寧に書いたりすることができる。

ファーストステップ②

- ・児童が自分で文字の形を確かめながら年賀状を書けるよう、文節ごとに文字の形を黒板や端末上に提示しましょう。

	学習活動	手立て／留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の流れ ○ これまでの学習の振り返り ○ <u>年賀状を送る相手とその理由について交流</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ※年賀状を送る相手とその理由について考える時間を保障する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>本時の学習課題</u> ・「あけましておめでとう」を文字の形に注意しながら丁寧に書く。 ○ 年賀状を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ※年賀状の見本を提示する。 ※文節ごとに文字を提示する。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>完成した年賀状を見せ合う。</u> ○ 振り返りと次時の活動の見通し 	<ul style="list-style-type: none"> ※表情カードを提示し、書いた感想を交流させる。

ファーストステップ①

- ・本時の流れや学習課題を示すし、見通しをもたせましょう。
- ・年賀状を送る相手とその理由を交流し、相手を喜ばせたいという思いをもたせて活動への意欲を高めましょう。

ファーストステップ③

- ・表情カードを用いて年賀状を受け取った相手の気持ちを想像させるなど、自分の頑張りが相手の喜びにつながるという実感をもたせましょう。



事例⑪

知的障がいのある児童の主体的な学びを促す環境整備の工夫

授業づくりの視点

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 児童の学習意欲が高まらず、前向きに学習に取り組む姿があまり見られない。

② 主体的な学びを促す「分かって動ける」授業づくり

◆例えば、「生活単元学習」で、こんなことからはじめてみましょう。

ファーストステップ！

- 生活単元学習「とうふのつくりかたをしらべよう」
- 小学校
- 特別支援学級（知的障がい）

本時の目標

- ・「とうふづくり」に興味をもち、本単元の学習活動に対する見通しをもつことができる。

ファーストステップ②

- ・絵本の読み聞かせを通して、自分たちが栽培した（生活）大豆から豆腐を作るために、順序など内容の大体を捉える（国語）などして、**各教科等との関連を図る**ようにしましょう。



	学習活動	手立て／留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の流れ ○ <u>これまでに栽培した野菜の振り返り</u> ・大豆、玉ねぎ、人参… ○ 単元の学習活動の見通し ・豆腐を作ってみんなに食べてもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ※野菜の写真を紹介 ※収穫した大豆を掲示
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 豆腐のイメージづくり ○ 本時の学習課題 ・豆腐はどうやって作るんだろう。 ○ <u>絵本「とうふができるまで」の読み聞かせ</u> ○ 豆腐の作り方で分かったことを発表 	<ul style="list-style-type: none"> ※実際の豆腐を見せ、「どうして白い？」等の疑問をもたせる。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>豆腐を実食</u> ○ 振り返り 	

ファーストステップ①

- ・写真や具体物を提示し、これまでの学習を振り返るとともに、**本単元の見通しをもたせる**ようにしましょう。
- ・意欲をもって本単元に取り組めるよう、**過去の楽しかった経験を本単元の内容と結び付けて振り返ったり、他の児童と共有したり**しましょう。



ファーストステップ③

- ・豆腐を実際に食べたり、他の児童と感想を共有したりするなどして、豆腐を作るという**今後の学習活動に対する期待感をもたせる**ようにしましょう。

事例⑫

情緒障がい特別支援学級における「授業を通して分かったことを自分の言葉で説明できる」授業づくりの工夫

授業づくりの視点

- ② 主体的な学びを促す
「分かって動ける」授業づくり

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 学習意欲が持続しない生徒が、学習に対して前向きになる指導方法が分からない。

◆例えば、「数学科」で、こんなことから始めてみましょう。

- 数学科「平面図形～平行移動」
- 中学校
- 特別支援学級（自閉症・情緒障がい）

ファーストステップ！

本時の目標

- ・平行移動について、自分の言葉で説明することができる。（知識及び技能）
- ・平行移動の意味を考え、移動の前後の図形の性質や関係について気付くことができる。（学びに向かう力、人間性等）

ファーストステップ②

- ・生徒自身が操作（活動）できる教材を用いて、**学習意欲を高める工夫**をしましょう。
- ・**解き方の手順を「可視化」**して、**定着問題で、生徒自身が活用できるように**しましょう。
- ・**学習内容を焦点化**しましょう。

	学習活動	手立て／留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の流れ ○ <u>既習内容の確認（小学校第5学年「合同と三角形、四角形」）</u> ○ <u>定着問題（対称となる頂点の確認）</u> ○ 本時の学習目標の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学習の流れを提示 ・ <u>学習内容や課題に取り組む手順、時間の経過等を視覚的に示す。</u> ■ 定着問題⇒知識の定着
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>単元の学習活動、本時の学習課題</u> ・ <u>ぴったり重なる三角形を見つける</u> ・ <u>ぴったり重なる三角形を書く</u> ○ 定着問題 類似問題 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 課題の提示と確認 ・ <u>課題の内容を調整する。</u> ・ <u>平行イメージをもてるように板書の工夫をする。</u>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>まとめ、振り返り</u> ・ <u>図形の平行移動の意味を自分の言葉で説明する</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本時の学びを自分の言葉で振り返る ・ <u>キーワードを提示する。</u>

ファーストステップ①

- ・授業の導入で、学習の流れを**視覚的に提示するとともに、生徒が分かる言葉で端的に説明**しましょう。（**静の時間**）
- ・定着問題では、**課題と向き合う時間（静の時間）、生徒の言葉で振り返る（動の時間）場面を設定**しましょう。

ファーストステップ③

- ・ワークシートや板書から、矢印の向きや距離が同じで平行であることを導けるように「**キーワード**」を提示し、**生徒自身が自分の言葉で自信をもって発表できる手立てを工夫**しましょう。



動の時間



静の時間

③ 対話的な学びを実現する授業づくり

◆ 経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 学級の人数が少ないので、対話的な活動を行うことが難しい。
- 知的障がい学級で「対話的な学び」はどのように行えばよいのか分からない。

ファーストステップ！

◆ 例えば、「国語科」で、こんなことからはじめてみましょう。

- 国語科「お客さんに分かりやすく品物のことを伝えよう」
- 中学校
- 特別支援学級（知的障がい）

本時の目標

- ・ 品物について分かりやすく説明する文章を考えることができる。

ファーストステップ②

- ・ 話合いの流れやパターンを分かりやすく示すとともに、**教師が思考を深める問い返しを行い、対話の質を深めるように**しましょう。



【学習する際のポイントの明確化】

	学習活動	手立て／留意点
導入	○ 単元の計画及び本時の流れの確認	※前回の学習内容の振り返り
展開	○ 本時の学習課題の提示 ○ 伝えたいことを考える ・ 個人思考～伝えたいことを付箋に書く。 ・ ペア学習～考えたことを発表し合い、まとめて文にしていく。 ○ 作成した文章の推敲 ・ 分かりやすいか、買いたくなるか等	※学習課題の板書 ※個の特性に応じた役割分担等の工夫
終末	○ 振り返り	※できたことを具体的に伝える。

ファーストステップ①

- ・ 生徒が主体的に学習に向かえるよう、これまでの学習で身に付けたことを**振り返り**、今後の学習で身に付けることについて**見通し**をもてるようにしましょう。



【特性に応じて付箋を活用】

ファーストステップ③

- ・ この時間で「何ができるようになったのか」を明確にし、次時の学習へ向かえるよう、**明確な評価規準や目指す子どもの姿を設定**しておきましょう。

事例⑭

自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する、伝えることが苦手な児童が考えを発信したくなる工夫

授業づくりの視点

③ 対話的な学びを実現する授業づくり

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 思ったことを全て口に出し、内容を整理して伝えることが苦手な子どもに対してどのように指導したらよいか分からない。
- 少人数のため、児童の考えを広げたり深めたりすることが難しい。

ファーストステップ！

◆例えば、「算数科」で、こんなことからはじめてみましょう。

- 算数科「分数のかけ算」
- 小学校
- 特別支援学級（自閉症・情緒障がい）

本時の目標

- ・分数の情報について、数の意味と表現をもとにしたり、情報に関して成り立つ性質を用いたりして、計算の仕方を多面的に捉え考える。

ファーストステップ①

- ・これまでの学習を具体的に振り返り、学習の見通しをもたせましょう。

	学習活動	手立て／留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計算練習（ウォーミングアップ） ○ 問題把握 ○ <u>これまでの学習の振り返り</u> 	※整数×整数、小数×整数の計算方法を思い出させる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題設定 ・計算の仕方を考える。 ○ 問題解決 ・数直線や図を使って説明する。 ・算数の言葉を使って説明する。 	※児童のつぶやきを大事にする。 ※一緒に言葉を整理し、考えをまとめる。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ ○ 確認問題 ○ 振り返り 	※次に学習することを予想する。

ファーストステップ②

- ・肯定的な言葉をかけ、安心して話ができる雰囲気をつくりましょう。
- ・児童とのやり取りでは、教師が「聞き役」や「同級生役」になり、児童が自ら話したくなるような工夫をしましょう。

ファーストステップ③

- ・どんな伝え方が効果的だったか、どんなことができるようになったかを振り返るとともに、今後の学習に対する意欲を高めましょう。



事例⑮

通常の学級における どの子ども共に学ぶことができる温かい環境づくり

授業づくりの視点

- ④ ユニバーサルデザインの視点からの授業づくり

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 支援が必要な生徒が、交流授業でのグループ活動に入りにくい。
- 支援が必要な生徒が、指示が分からず、活動を進められない。
- 通常学級の生徒が、支援の必要な生徒とどう関わったらよいか分からない。

ファーストステップ！

◆例えば、「理科」で、こんなことからはじめてみましょう。

- 理科「地球と宇宙」 中学校 通常の学級（特別支援学級、特別な教育的支援を必要とする生徒を含む）

本時の目標

- ・天体の年周運動が地球の公転によって生じることについて、実験結果から根拠を見だし、結論を記述することができる。（思考力、判断力、表現力等）

ファーストステップ②

- ・本単元では、時間的・空間的な見方・考え方を働かせることが重要であることから、「イラストや動画」などの視覚資料で示すなど、工夫しましょう。
- ・「具体物」や「動作」で操作できるように、教材を用意しましょう。

	学習活動	手立て／留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の流れ ○ 本時の学習課題の提示 ○ 班ごとに考えた実験の流れの確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れを提示し、見通しを共有する
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観察・実験 <ul style="list-style-type: none"> ・太陽役、地球役などに分かれ、年周運動を起こす地球の動きを動作で確認する。 ○ 結果の交流・考察 <ul style="list-style-type: none"> ・協働学習の中で、結果をまとめたり考察を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに協働しているかを視点到巡回し、リーダーが困っている所に支援をする。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 考察の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・黒板に考察を示し、確認する。 ○ 本時のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察欄は「書き出し」を示し、課題と関連させながら「変化したものは何か」を考えられるように工夫する。

ファーストステップ①

- ・学習活動の流れを可視化し、**生徒が見通しをもてるよう**に示しましょう。
- ・安心してグループ学習に参加できるように、**通常の学級の生徒と特別支援学級の生徒が関わり合う機会を日常的に設定**しましょう。
- ・**個別の教育支援計画及び個別の指導計画を整備**し、障がいの状況に応じた対応や配慮について特別支援学級の担任と共有しておきましょう。

ファーストステップ③

- ・抽象的な言葉を多用せず、具体的な言葉で授業を展開するよう心掛けましょう。
- ・一度に多く情報伝えるのではなく、**一つ一つ指示を出す**ようにしましょう。
- ・パニック時における**対応方法を通常の学級の担任と特別支援学級の担任とで共有**しておきましょう。

